

A 型でもない、B 型でもない、『スーパー B 型』 を目指す就労支援モデル開発の実践研究

特定非営利活動法人 かなめ

〒900-0024 沖縄県那覇市古波蔵 2 丁目 3 0 番 1 2-4 0 1 号

助成事業の概要

就労継続支援事業は、障害を持つ方が一般就労に向かうための訓練・準備の場として重要な役割を担うべきものである。しかしながら、その事業運営母体としては会社組織も可能であることから、残念ながら「障がい者の訓練よりも経営母体の収益」を優先させようとする動きが全国的に見受けられ、加えてそうした動きに対する国の指導等によって、却って様々な悪影響が出現している。そこで、「A 型でもない、従来の B 型でもない、本来あるべき就労支援事業所、即ちスーパー B 型の事業モデルを開発する」ことが求められる。本事業では、1 年間で「考えられる方向性の再検討」、「実際現場での可能性を探る潜行調査」や「複数のモデル事業所でのワークショップ等の検討調査」を経て、「結論としての方向性の提案」という最終ステップに向かいつつ、前述の課題・命題にアプローチする。

事業の成果

当法人事業所が、事業所建物所有者に騙されたことが原因で、5 月に B 型事業所を閉所することを選択したことから、複数の外部の事業所をステージに、この事業に取り組むこととなった。

結果としては、それが幸いし、C 型という新たな視点にたどり着けることができた。

(1)考えられる方向性の検討

・スーパー B 型のような枠を破る考え方は A 型で

も起業型プロジェクトが可能なら機能させられるのではないか。その場合「ウルトラ A 型」ということもできるだろう。

- ・スーパー B 型・ウルトラ A 型は、「金銭的な価値（付加価値）をより生み出すことができそうなもの」であることだけでなく、「働くということにプライドを持てる、感じさせる内容」が必要であろう。
- ・1 事業所だけでは利用者（障がい者）の動向やニーズが掴みきれない。複数の事業所で調査する必要性がある。

(2)他事業所内部実状体験調査

- ・沖縄県内 B 型 1 箇所・A 型 1 箇所（4 ヶ月間）、福岡県内 B 型 1 箇所・A 型 1 箇所（6 ヶ月間）、計 4 箇所に職員とし就職し、その組織体制からの可能性や課題、対象となり得る利用者のニーズ等を探った。

(3)モデル事業所におけるワークショップ等調査

- ・広島県内の就労事業所連絡協議会を対象に研修会を実施し、その中で当事業のモデルになり得る 2 箇所の B 型事業所を選定した。
- ・広島県における 2 箇所の B 型事業所で、「スーパー B 型」に向けた可能性を探る調査をワークショップ形式で実施した。

(4)調査の整理と方向性の再検討

- ・就労支援事業所の中には支援事業に適さない、「支援理念を持たない、目的が助成金ビジネスとなっているだけの事業所」が相当多いものと

思われる。

- ・そのような環境の中で「持てる能力を開花させられない利用者」はどのような事業所にも少数存在するものと思われる（精神障害、発達障害、軽度知的障害等の方に多いのではないかとと思われる）。
- ・また、お金以外に誇りや働き甲斐を感じられる内容の事業所も少ないと思われるが、そういう価値を求めている利用者も存在する。
- ・スーパーB型とウルトラA型、さらに言うならば「A型でもない、B型でもない、C型」を目指すべきではないだろうか。
- ・C型とは、ひとつは「地域協働型・コミュニティ型」、もうひとつは「協同型・協力型・組合理型」。そのどちらも「社会のために役にたつ、いいことをする」ことが肝要なポイントである。

(5)実際の現場で「ウルトラA型+C型」を目指す実験の開始

- ・福岡県で立ち上げた新たなA型事業所の中で、「C型」を目指す機能を利用者に提案、次の段階の実験がスタートした。

成果の広報・公表

本年度事業においては、調査が精一杯となり、成果の公表までたどり着けなかったことは残念であるが、12ヶ月の中ではここまでが限界であったとも感じています。

加えて沖縄県内で他事業所内部実状体験調査していた対象事業所が「不正行為による指定取消または助成金の払戻処分」となる可能性が発生したことから、これに関する告発的内容のレポートも今後整理して報告させていただきたいと思えます。

今後の展開

[1] 福岡県宗像市でスタートさせた新たなA型(地域課題・社会課題対応型のA型)事業所のスタート期を乗り切り、実質的なC型として発進したいと考えています。C型の内容としては「障害者自らが物件を探し出して、自分が入居したいようなグループホームを企画する事業」等、『住まい方研究所(仮称)』を進めていく所存です。

[2] 併せて、「C型」の考え方を宗像市の他事業所にもお知らせし、次にはB型の事業所でC型を目指す実験事業(可能であれば複数の事業所が研究事業として参加する形を模索したいと思えます)の実現を図りたいと思えます。

[3] [1]と[2]が順調に推移したのちには、宗像市に次年度県立特別支援学校がキャンパス内に開校する福岡教育大学とも連携を図り、C型の研究と普及に取り組んでいきたいと思えます。

[4] 一方広島では、県内竹原市のモデル事業所において、C型機能の付加と強化する事業として、地域連携型で、地域の防災備蓄物資を事業所が管理委託を受ける形を提案する所存です。

[5] また、[1]~[4]を含め、2023年度の取り組み内容を再度まとめ直し、Web等での掲載に組み組みたいと思えます。